



地域に応じたみどりの まちづくりの方針



1 地域に応じたみどりのまちづくりの考え方

(1) 地域区分

吹田市は、全市的に市街化が進む中で、地域ごとに異なる特色を併せもっています。「第3次総合計画」では、全市的な取組とともに、身近な生活の場である地域からまちづくりに取り組みながら、地域の特色を活かした、住み続けることができるまちの実現を目指すべく、市域を6つのブロックに区分した地域別の計画を策定しています。

一方、「第3次総合計画」の地域別にみどりの現況と課題を整理すると、量だけではなく、種類や質、さらには、開発事業の動向といったみどりのまちづくりを進める上での外的要因についても地域ごとに異なる特色を併せもっていることがわかります。

このため、市域をよりきめ細やかに捉え、地域に応じたみどりのまちづくりを進めていくことが重要であることから、「第3次総合計画」の地域ブロックと同様に、市域をJR以南地域、片山・岸部地域、豊津・江坂・南吹田地域、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域、千里ニュータウン・万博・阪大地域の6つのブロックに区分し、地域に応じたみどりのまちづくりの方針を定めます。

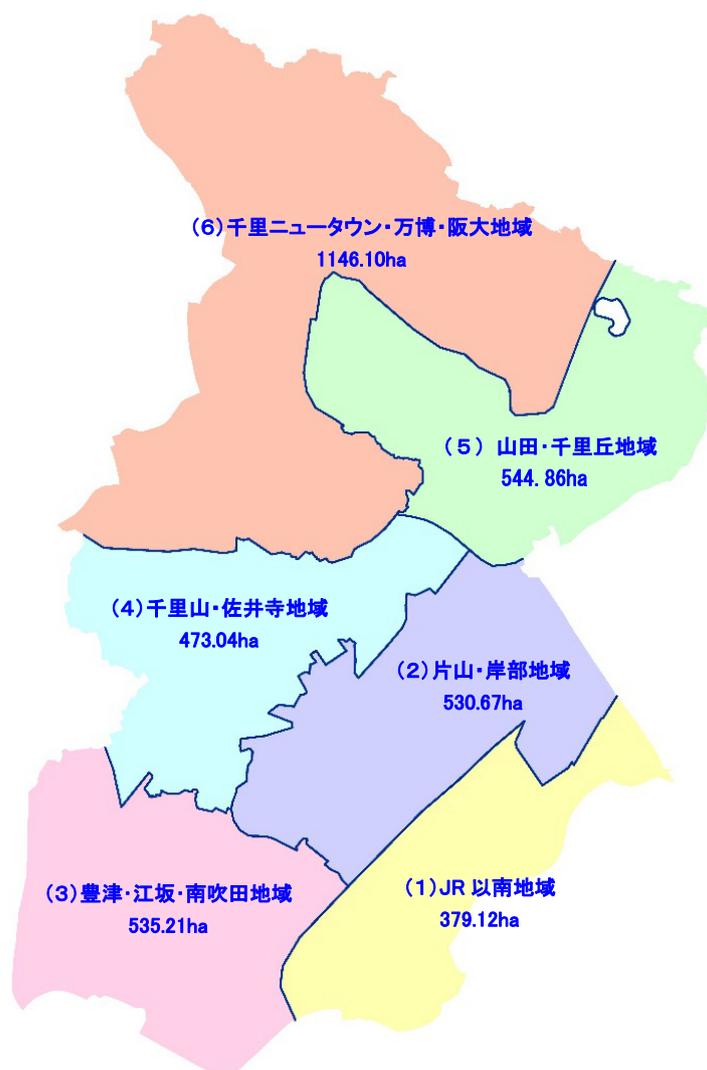


図 6.1.1 地域区分

(2)地域に応じた基本施策と重点プロジェクト

概ね市全域に共通する27の基本施策以外に、6つのブロックに区分した地域に対応する重点プロジェクトは、以下の表に示すとおりです。

表6.1.1 地域に応じた重点プロジェクト

基本施策を推進する重点プロジェクト	JR以南地域	片山・岸部地域	豊津・江坂・南吹田地域	千里山・佐井寺地域	山田・千里丘地域	千里ニュータウン・万博・阪大地域	市全域
1 公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)							●
2 公園・緑地の維持管理の適正化と効率化							●
3 街路樹のリバイタリゼーション(再生)							●
4 「北大阪健康医療都市(健都)」のまちづくりによるみどりの拠点の創出		●					
5 南吹田地域のまちづくりに併せた重点的な緑化	●		●				
6 千里山駅周辺のまちづくりに併せた緑化				●			
7 歴史と風格あるみどりのまちづくり							●
8 花咲くまちづくり							●
9 自然との共生に配慮する開発事業の誘導							●
10 みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全							●
11 千里花とみどりの情報センターのみどりのまちづくり実践型シンクタンク化	○	○	○	○	○	●	
12 市内大学との連携によるみどりのまちづくり	○	●	○	●	○	●	
13 大阪府との連携によるみどりのまちづくり	●		●	●			

※「○」は、みどりのまちづくりを間接的に推進する基本施策です。

2 地域に応じたみどりのまちづくりの方針

(1) JR以南地域

① 地域の概況とみどりの現況

JR 以南地域は、古くから交通の要衝として、市内でも早くから開けてきた地域です。すいた発祥の地といわれ、旧集落のまちなみ、高浜神社、護国寺などの由緒ある社寺などがあります。また、JR 吹田駅周辺では、古くから商店が軒を連ね、商業の中心地として発展してきた地域です。

地域のみどりの特徴を見ると、古くからの開発により、河川を除く身近な自然の大半が消失しており、みどりの乏しい地域となっていますが、高浜町や南高浜町などにある旧街道沿いの古い社寺が貴重なみどりを提供しているほか、歴史街道集落の古い住宅には大木が残されています。また、住宅が密集している地区では、プランターや植木鉢などの軒下のみどりが潤いを提供しています。

地域の緑被率は 8.0%となっており、市内で最も緑被率が低い地域です。

地域内には、大規模な都市公園である中の島公園と身近な都市公園を合わせて 12 箇所の都市公園が設置されています。



図 6.2.1 JR 以南地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成 26 年 (2014 年))

表6.2.1 JR以南地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		中の島公園
みどりの骨格		神崎川、安威川
みどりの拠点・ 骨格をつなぐ ネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	阪急千里線、阪急京都線、JR 東海道本線
	高速道路のみどり	—
	主要道路のみどり	十三高槻線、大阪高槻京都線など
	河川・水路	正雀川

②みどりの課題

- まとまったみどりが乏しく、かつ、建物などの密集により、新たなみどりを増やすために用地を確保することが難しいため、立体的な緑化、敷地内のオープンスペースや道路残地の活用など、創意工夫を施した緑化に取り組んでいくことが課題です。
- 神崎川と安威川の河川敷における自然性の高い河川空間の形成などにより、まとまったみどりを創出していくことが課題です。
- 街路樹などによる道路の緑化や緑道の整備などにより、みどりのネットワークの形成を進めるとともに、吹田の渡し跡や高浜神社などの市街地に残る歴史的・文化的資源を活用していくことが課題です。
- 残されている貴重な住宅の屋敷林や社寺林を保全していくことが課題です。



中の島公園



神崎川



吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）



高浜神社

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.2 JR 以南地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	22	みどりの人材育成
3	農地とため池の保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
4	公園・緑地の適切な維持管理	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	24	みどりの助成制度の見直し
6	道路のみどりの適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
7	河川と水路の適切な維持管理			18	公園の運営管理	26	みどりの調査と研究
				19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	27	「緑化推進基金」の有効活用
				20	みどりが持つ多様な効果の活用		

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-1	中の島公園パークマネジメントプランの策定
		1-2	遊園の利活用
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
5	南吹田地域のまちづくりに併せた重点的な緑化	5-1	「南吹田の新駅周辺緑化重点地区計画」の策定
		5-5	市民との連携・協働による地域の重点的な緑化とみどりの適正管理
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手続等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進
13	大阪府との連携によるみどりのまちづくり	13-2	都市計画道路「十三高槻線」の整備による街路緑化
		13-3	大阪府や河畔企業などとの連携・協働による神崎川と安威川のみどりの充実



図 6.2.2 JR 以南地域の重点プロジェクト

(2)片山・岸部地域

①地域の概況とみどりの現況

片山・岸部地域は、千里丘陵のすそ野にあたり、古来より丘陵の斜面と豊富で良質な粘土を用いて窯業が営まれてきました。明治時代にはビール工場、大正時代には吹田操車場が設けられ、都市基盤の整備とともに、商店街や住宅地が発達してきた地域です。

地域のみどりの特徴を見ると、名神高速道路に沿って、原町などにまとまった樹林、農地、大小様々なため池などが残っており、都市環境の保全、生き物の生息などにおいて貴重な自然空間を提供しています。近年の都市計画道路の整備や宅地開発などにより、これらのみどりは減少傾向にあります。紫金山公園と吉志部神社、片山公園と片山神社など、社寺と一体となったみどりは、ながく市民に親しまれてきています。また、大阪高槻京都線沿いには、多くの商工業施設が分布しており、なかでもアサヒビール吹田工場の緑化は市民に評価されています。さらに、緑道が貴重なみどりの空間となっているほか、住宅が密集している地区では、プランターや植木鉢などの軒下のみどりがうるおいを提供しています。

現在、昭和59年に機能停止された吹田操車場跡地において、まちの低炭素化や省エネ・緑化による先進的な環境モデル地区の形成をめざして「北大阪健康医療都市（健都）」のまちづくりが進められています。

地域の緑被率は13.3%となっており、比較的緑被率が低い地域です。

地域内には、大規模な都市公園である紫金山公園と片山公園のほか、身近な都市公園を合わせて14箇所の都市公園が設置されています。

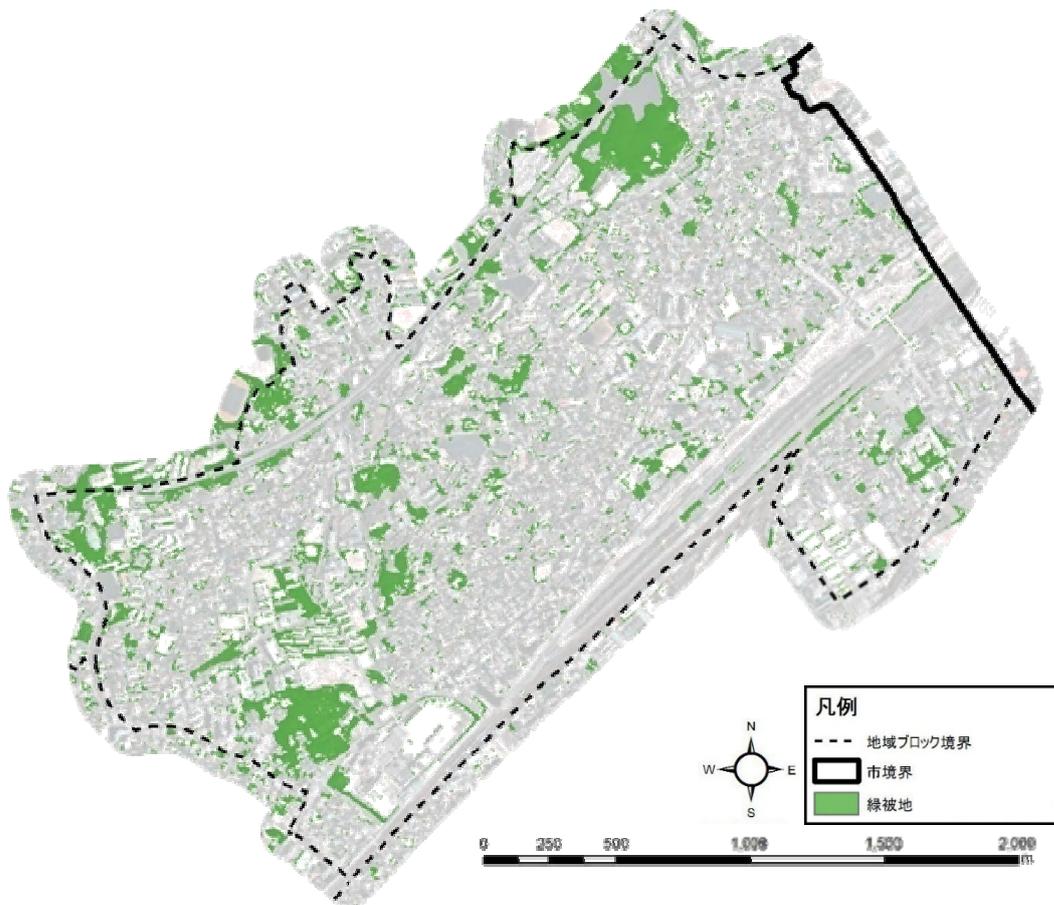


図 6.2.3 片山・岸部地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成26年(2014年))

表6.2.3 片山・岸部地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		「北大阪健康医療都市（健都）」、紫金山公園、片山公園、大阪学院大学、大和大学
みどりの骨格		丘陵・斜面
みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	JR東海道本線、阪急京都線、阪急千里線
	高速道路のみどり	名神高速道路
	主要道路のみどり	大阪高槻京都線、佐井寺片山高浜線、豊中岸部線など
	河川・水路	正雀川・山の谷水路

②みどりの課題

- 商業地・業務地、駅前などにおいて、立体的な緑化、敷地内のオープンスペースや道路残地の活用など、創意工夫を施した緑化に取り組んでいくことが課題です。
- 街路樹の整備や接道部の緑化などにより、みどりを創出していくことが課題です。
- 新たなみどりの拠点となる「北大阪健康医療都市（健都）緑化重点地区」における取組を進めていくことが課題です。
- 紫金山公園の里山には、まとまった樹林やため池があり、都市環境を保全する機能の面からも、貴重な存在となっていることから、これらを適切に保全・活用していくことが課題です。
- 多様な生き物が生息できるよう、身近な自然が残されている農地、ため池、丘陵・斜面の樹林をきめ細やかに保全していくことが課題です。
- 片山神社の周辺にある樹林は、地域住民にとっての身近な鎮守の森として、貴重な財産として保全していくことが課題です。



紫金山公園



「北大阪健康医療都市（健都）」



大阪学院大学



「アサヒビール吹田工場」

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.4 片山・岸部地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	22	みどりの人材育成
2	丘陵・斜面のみどりの保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
3	農地とため池の保全	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	24	みどりの助成制度の見直し
4	公園・緑地の適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
5	大学のみどりの保全	12	まちづくりに併せたみどりの拠点の創出	18	公園の運営管理	26	みどりの調査と研究
6	道路のみどりの適切な維持管理	13	大規模な公園・緑地の未開設区域の整備	19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	27	「緑化推進基金」の有効活用
7	河川と水路の適切な維持管理			20	みどりが持つ多様な効果の活用		

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-1	紫金山公園・片山公園パークマネジメントプランの策定
		1-2	遊園の利活用
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
4	「北大阪健康医療都市(健都)」のみどりのまちづくりによるみどりの拠点の創出	4-1	「北大阪健康医療都市(健都)緑化重点地区計画」の策定
		4-2	「緑のふれあい交流創生ゾーン1」における防災機能や健康づくりの機能を備えた緑の空間の創出
		4-3	都市計画道路「岸部中千里丘線」の整備による街路緑化
		4-4	エリアマネジメント組織との連携・協働によるみどりのマネジメント
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-1	地域との連携・協働による片山神社周辺の鎮守の森の保全
		7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手続等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進
12	大阪学院大学・大和大学との連携によるみどりのまちづくり	12-1	みどりに関する連携研究
		12-2	みどりに関する協定の締結
		13-3	学生との連携・協働によるみどりのまちづくりの推進



図 6.2.4 片山・岸部地域の重点プロジェクト

(3)豊津・江坂・南吹田地域

①地域の概況とみどりの現況

豊津・江坂・南吹田地域は、千里丘陵の南側にあり、地下水が豊富で垂水神社などの水にゆかりのある史跡が多くあります。江坂駅を中心に、北大阪の都心的役割としての商業・業務施設やアミューズメント施設の集積する地区となっていますが、その周辺には旧集落の面影を残したまちなみや、北部には閑静な住宅地が形成されています。

地域のみどりの特徴を見ると、北大阪の都心的機能に特化した商業地・業務地として開発されたため、みどりが少ない地域となっていますが、江坂公園のように市民の評価が高い都市的なみどりも創出されています。また、松並木のある高川、桜並木のある糸田川は、まちなかでの貴重な緑と水の空間となっています。さらに、垂水神社の周辺にある樹林は自然性が高く、貴重なみどりとして残っています。服部緑地の周辺には「生産緑地地区」に指定されている農地が多く残っています。

現在、南吹田の新駅を中心に概ね半径 500m の区域において、新駅の設置や主要道路の整備などを主な事業とする、南吹田地域のまちづくりが進められています。

地域の緑被率は 10.7%となっており、JR以南地域に次いで 2 番目に緑被率が低い地域です。

地域内には、大規模な都市公園である服部緑地のほかに、地域を代表する江坂公園や南吹田公園などの身近な都市公園も多く、20 箇所の都市公園が設置されています。

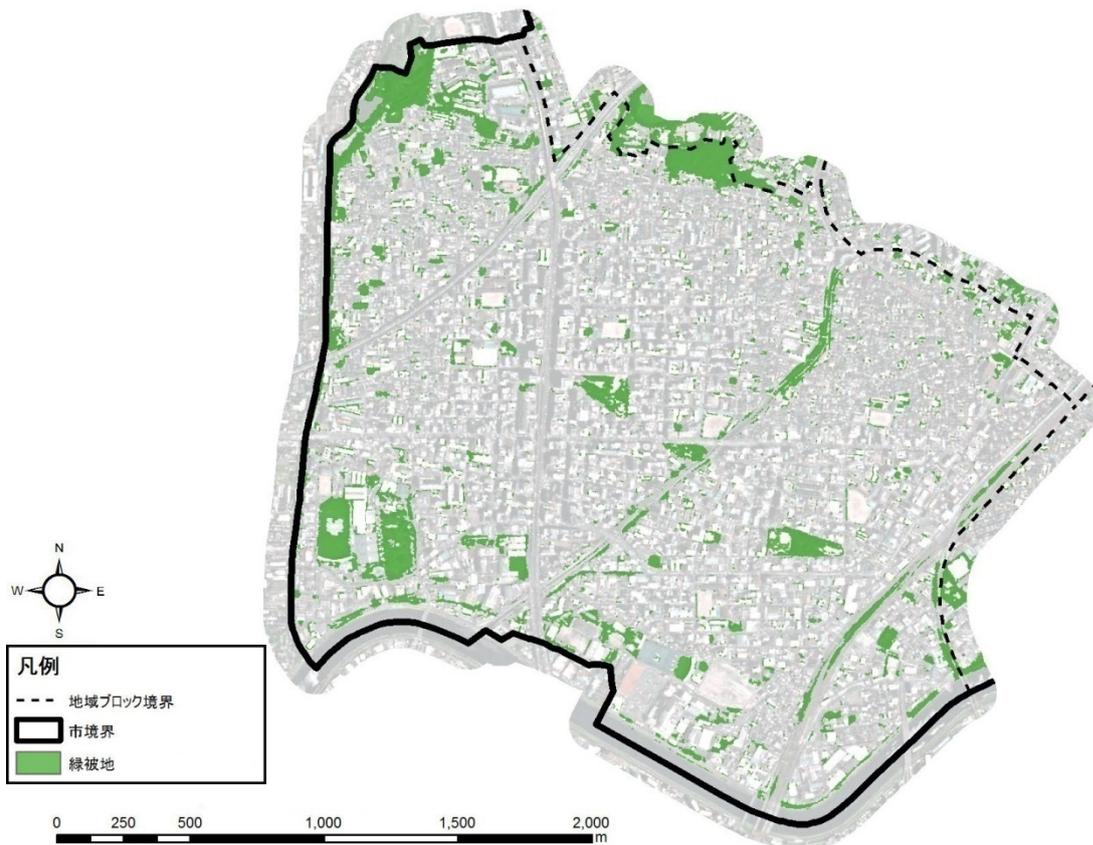


図 6.2.5 豊津・江坂・南吹田地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成 26 年(2014 年))

表 6.2.5 豊津・江坂・南吹田地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		服部緑地
みどりの骨格		神崎川、丘陵・斜面
みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	JR東海道本線、地下鉄御堂筋線・北大阪急行、阪急千里線
	高速道路のみどり	名神高速道路
	主要道路のみどり	御堂筋線、豊中吹田線、十三高槻線など
	河川・水路	糸田川、高川

②みどりの課題

- まとまったみどりが乏しく、かつ、建物などの密集により、新たなみどりを増やすために用地を確保することが難しいため、立体的な緑化、敷地内のオープンスペースや道路残地の活用など、創意工夫を施した緑化に取り組んでいくことが課題です。
- 道路、高川、糸田川をみどりの資源として有効に活用し、街路樹の整備などにより、みどりを充実していくことが課題です。
- 吹田市の西の玄関口として、地下鉄江坂駅周辺のみどりの機能を強化するために、駅や商業施設などの施設緑化を進めていくことが課題です。
- 神崎川沿いに引き続きみどりを生み出していくために、大阪府などの関係機関や河畔企業を始めとする多様な主体と連携・協働しながら、緑化を進めていくことが課題です。
- 垂水神社の周辺にある樹林は、地域住民にとっての身近な鎮守の森として、貴重な財産として保全していくことが課題です。
- みどりのまちづくりの拠点として、江坂花とみどりの情報センターを有効活用し、市民参画・協働の輪を広げていくことが課題です。
- 南吹田地域において、新駅の設置や主要道路の整備などと併せ、花や緑がいっぱいで美しいまちづくりを進めていくことが課題です。



江坂公園



神崎川



糸田川の桜並木



穂波フラワーロード

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.6 豊津・江坂・南吹田地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	21	花とみどりの情報センターの充実
2	丘陵・斜面のみどりの保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	22	みどりの人材育成
3	農地とため池の保全	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
4	公園・緑地の適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	24	みどりの助成制度の見直し
6	道路のみどりの適切な維持管理	12	まちづくりに併せたみどりの拠点の創出	18	公園の運営管理	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
7	河川と水路の適切な維持管理	13	大規模な公園・緑地の未開設区域の整備	19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	26	みどりの調査と研究
				20	みどりが持つ多様な効果の活用	27	「緑化推進基金」の有効活用

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-1	江坂公園パークマネジメントプランの策定
		1-2	遊園の利活用
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
5	南吹田地域のまちづくりに併せた重点的な緑化	5-1	「南吹田の新駅周辺緑化重点地区計画」の策定
		5-2	都市計画道路「南吹田駅前線」の整備による街路緑化
		5-3	駅前交通広場の整備による駅前緑化
		5-4	上新田公園の再整備
		5-5	市民との連携・協働による地域の重点的な緑化とみどりの適正管理
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-1	地域との連携・協働による垂水神社周辺の鎮守の森の保全
		7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手続等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進
13	大阪府との連携によるみどりのまちづくり	13-1	都市計画緑地「服部緑地」の整備促進
		13-2	都市計画道路「十三高槻線」の整備による街路緑化
		13-3	大阪府や河畔企業などとの連携・協働による神崎川のみどりの充実



図 6.2.6 豊津・江坂・南吹田地域の重点プロジェクト

(4)千里山・佐井寺地域

①地域の概況とみどりの現況

千里山・佐井寺地域は、市域中央部に位置しており、千里丘陵の起伏に富んだ地形からなり、古くから尾根筋に佐井寺、谷筋に春日などの集落が形成され、歴史的資源やまちなみが残されています。千里山地区は、郊外住宅地として開発され、みどり豊かで閑静な住宅地として発展してきました。広大な敷地に豊かなみどりとオープンスペースを持つ関西大学は、地域文化や学生向けのにぎわいのある商業空間を形成してきました。また、佐井寺地区では、「土地区画整理事業」により、新しい住宅が多く建設されました。

地域のみどりの特徴を見ると、千里山地区には、古くからの計画的な住宅地が存在し、落ち着いたみどりを提供しています。また、斜面には樹林や竹林が残っています。佐井寺地区では「土地区画整理事業」が行われた結果、竹林などの自然が減少しています。春日地区周辺には昔の面影を残す竹林、農地、ため池が残っています。関西大学にはクスノキの大木などが多くあり、貴重なみどりを提供しています。その他、生垣緑化やガーデニングなどの市民の取組により、貴重なみどりが提供されています。

現在、千里山地区において、老朽化した「都市再生機構（UR）千里山団地」の建替えと千里山駅周辺整備を総合的・一体的に行うまちづくりが進められています。

地域の緑被率は 23.7%となっており、千里ニュータウン・万博・阪大地域と山田・千里丘地域に次いで3番目に緑被率が高い地域です。

地域内には、大規模な都市公園である紫金山公園と千里緑地のほかに、地域を代表する佐井寺南が丘公園などの身近な都市公園も多く、22箇所の都市公園が設置されています。

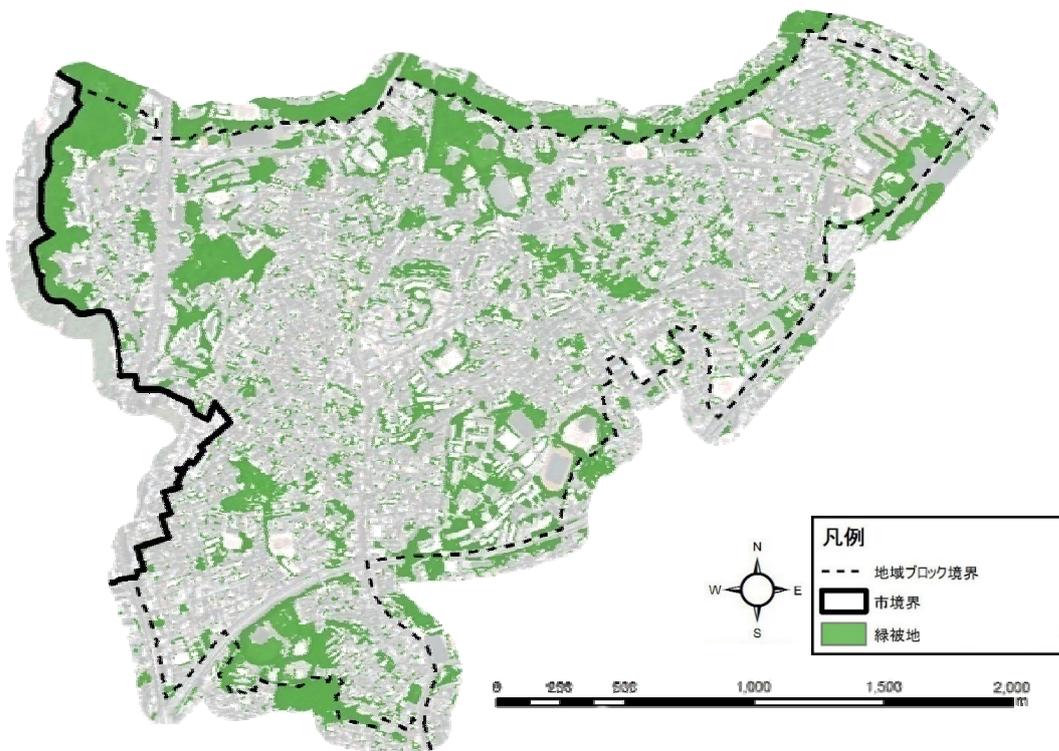


図 6.2.7 千里山・佐井寺地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成 26 年 (2014 年))

表 6.2.7 千里山・佐井寺地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		紫金山公園、関西大学
みどりの骨格		千里緑地、丘陵・斜面
みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	阪急千里線、北大阪急行
	高速道路のみどり	名神高速道路
	主要道路のみどり	御堂筋線、豊中岸部線、佐井寺片山高浜線など
	河川・水路	正雀川、高川、上の川

②みどりの課題

- 竹林、農地、ため池が一体的に残されている春日地区などの里山は、吹田市の原風景として保全・活用していくことが課題です。
- 集合住宅などの開発に際して、既存の豊かに生育した樹木や樹林を守るために、みどりを保全するための仕組みを強化・見直していくことが課題です。
- 閑静なみどりの住宅地として、生垣、樹林、竹林などを保全するとともに、「都市再生機構（UR）千里山団地」の建替えと千里山駅周辺整備を総合的・一体的に進め、千里山の丘陵地形や豊かな緑環境を、大切に継承していくことが課題です。
- ため池を始めとする地域内に分布する水辺の自然を保全していくために、水辺を活かしたみどりの環境整備や、地域住民による維持管理などに取り組んでいくことが課題です。
- 比較のみどりが不足している上の川などの河川を緑化していくことが課題です。



佐井寺南線（せせらぎの道）



関西大学



春日地区の農地



「千里山西風致地区」

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.8 千里山・佐井寺地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	22	みどりの人材育成
2	丘陵・斜面のみどりの保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
3	農地とため池の保全	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	24	みどりの助成制度の見直し
4	公園・緑地の適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
5	大学のみどりの保全	12	まちづくりに併せたみどりの拠点の創出	18	公園の運営管理	26	みどりの調査と研究
6	道路のみどりの適切な維持管理	13	大規模な公園・緑地の未開設区域の整備	19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	27	「緑化推進基金」の有効活用
7	河川と水路の適切な維持管理			20	みどりが持つ多様な効果の活用		

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-1	紫金山公園パークマネジメントプランの策定
		1-2	遊園の利活用
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
6	千里山駅周辺のみちづくりに併せた緑化	6-1	都市計画道路「千里山佐井寺線」の整備による街路緑化
		6-2	駅前交通広場の整備による駅前緑化
		6-3	市民との連携・協働による地域の緑化とみどりの適正管理
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手續等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保に必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進
12	関西大学との連携によるみどりのまちづくり	12-1	みどりに関する連携研究
		12-2	みどりに関する協定の締結
		12-3	学生との連携・協働によるみどりのまちづくりの推進
13	大阪府との連携によるみどりのまちづくり	13-1	都市計画緑地「服部緑地」の整備促進

(5)山田・千里丘地域

①地域の概況とみどりの現況

山田・千里丘地域は、山田川や旧小野原街道沿いに古くからの集落が形成され、社寺や歴史的資源が多く残っています。近年、集合住宅を始めとする開発により、市街化が進んだ地域です。

地域のみどりの特徴を見ると、他の地域と比較して民有地の樹林が多い点があげられます。青葉丘地区、新芦屋地区、千里丘地区周辺に多くみられる社宅の敷地内には、かつては多くの樹林が残されていましたが、近年の宅地開発などにより、減少傾向にあります。また、旧山田街道沿いの屋敷周辺における雑木林や竹林、山田伊射奈岐神社の周辺にある樹林などが貴重なみどりとして残されています。さらに、山田佐井寺岸部線では街路樹が豊かに生育しており、美しい景観を創出しています。

地域の緑被率は23.2%となっており、千里ニュータウン・万博・阪大地域に次いで市内で2番目に緑被率が高い地域です。

地域内には、大規模な都市公園である千里緑地のほかに、地域を代表する新芦屋中央公園などの身近な都市公園も多く、33箇所の都市公園が設置されています。

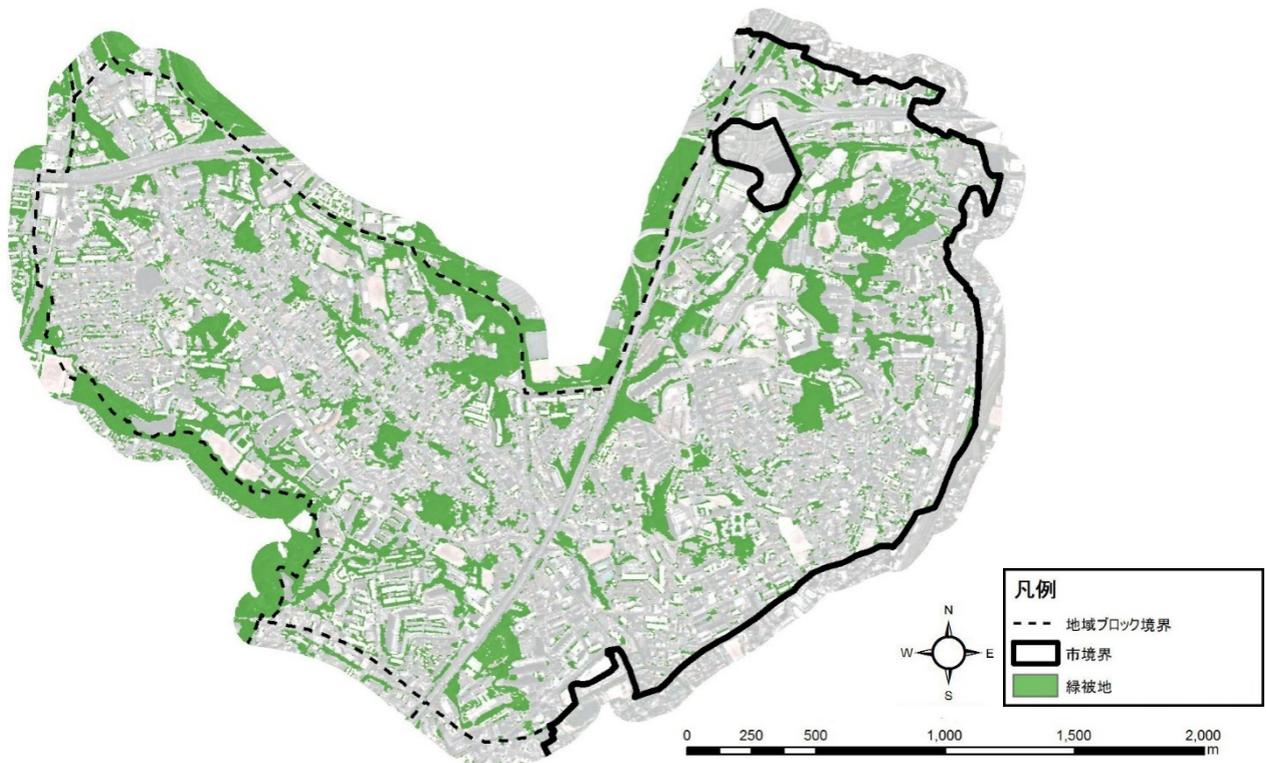


図 6.2 9 山田・千里丘地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成26年(2014年))

表 6.2.9 山田・千里丘地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		—
みどりの骨格		千里緑地、丘陵・斜面
みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	大阪モノレール、JR東海道本線
	高速道路のみどり	名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道
	主要道路のみどり	大阪中央環状線、大阪高槻京都線、箕面山田線など
	河川・水路	山田川

②みどりの課題

- 山田伊射奈岐神社の周辺にある樹林は、地域住民にとっての身近な鎮守の森として、貴重な財産として保全していくことが課題です。
- 丘陵・斜面に残されている貴重な樹林を保全していくことが課題です。
- 身近な公園を活かしていくために、地域住民と連携・協働しながら適切に維持管理するとともに、充実していくことが課題です。
- 道路のみどりを充実していくために、「緑あふれる未来サポーター制度」を活用しながら街路樹を適切に維持管理していくことが課題です。
- ヒメボタルやベニイトトンボなどの生き物にも配慮しながら、市民参加・協働により千里緑地を適切に維持管理するとともに、充実していくことが必要です。



山田佐井寺岸部線（こもれび通り）



山田伊射奈岐神社周辺の鎮守の森



千里丘北の星ヶ池



山田川

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.10 山田・千里丘地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	22	みどりの人材育成
2	丘陵・斜面のみどりの保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
3	農地とため池の保全	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	24	みどりの助成制度の見直し
4	公園・緑地の適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
6	道路のみどりの適切な維持管理			18	公園の運営管理	26	みどりの調査と研究
7	河川と水路の適切な維持管理			19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	27	「緑化推進基金」の有効活用
				20	みどりが持つ多様な効果の活用		

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-2	遊園の利活用
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-1	地域との連携・協働による山田伊射奈岐神社周辺の鎮守の森の保全
		7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手続等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進



図 6.2.10 山田・千里丘地域の重点プロジェクト

(6)千里ニュータウン・万博・阪大地域

①地域の概況とみどりの現況

千里ニュータウン・万博・阪大地域は、昭和45年に日本万国博覧会が開催された現在の万博記念公園、日本で初めてのニュータウンとして計画的に整備された千里ニュータウン、大阪大学が地域の大部分を占めています。近年、少子高齢化の進展などの様々な課題がみられるようになり、また、老朽化した住宅の建替えが始まり、その動きが本格化する時期を迎えています。

地域のみどりの特徴を見ると、千里ニュータウンは、その周囲を千里緑地が囲み、大規模な公園などが豊かなみどりを提供しており、街路樹、住宅地内の樹木も整備され、みどり豊かな街並みを形成しています。一方、身近な公園・緑地の中には利用頻度が低くなっているものもあります。また、万博記念公園は、まとまったみどりを提供しており、自然性の高い自立した森を形成しています。大阪大学のみどりは、万博記念公園と千里緑地をつなぐ貴重な存在となっています。また、地域の道路は、大阪中央環状線、中国自動車道、御堂筋線のほか、主要道路と生活道路が計画的に配置されており、比較的幅員が広い道路が多く、様々な樹種の街路樹が整備され、美しい景観を形成しています。さらに、樹林やため池などの比較的自然度の高いみどりにおいては、昆虫や水鳥などの多様な生き物が生息しています。

地域の緑被率は47.6%となっており、市内の中で最も緑被率が高い地域です。

地域内には、他の地域と比較して大規模な都市公園が多く、平成26年4月に独立行政法人日本万国博覧会記念機構から大阪府に継承された万博記念公園、吹田市が設置管理する千里北公園、千里南公園、桃山公園、千里緑地と身近な都市公園を合わせて30箇所の都市公園が設置されています。



図 6.2.11 千里ニュータウン・万博・阪大地域の緑被現況

(出典：「緑被率調査報告書」(吹田市、平成26年(2014年))

表6.2.11 千里ニュータウン・万博・阪大地域の主なみどり

みどりの将来像における位置づけ		施設などの名称
みどりの拠点		万博記念公園、千里北公園、千里南公園、桃山公園、大阪大学、千里金蘭大学
みどりの骨格		千里緑地
みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸	鉄道沿線のみどり	阪急千里線、北大阪急行、大阪モノレール
	高速道路のみどり	中国自動車道
	主要道路のみどり	大阪中央環状線、箕面山田線、千里中央線など
	河川・水路	山田川

②みどりの課題

- 千里北公園、千里南公園、千里緑地など、それぞれのみどりの設置目的に応じた保全と維持管理に取り組んでいくことが課題です。
- 住宅の建替えなどの開発の際に、豊かに育まれた木々が失われないよう、その保全に努めていくことが課題です。
- 身近な公園・緑地の中には、利用頻度が低くなっているものもあるため、地域住民のニーズや地域の特性に応じて再整備していくことが課題です。
- 生き物の生息空間を保全していくことはもちろんのこと、さらに生息しやすい環境を創出していくことが課題です。
- 美しい景観を創出している豊かな街路樹を守り、育ていくために、状況に応じた適切な維持管理や樹種の選定などに取り組んでいくことが課題です。



万博公園



千里南公園



大阪大学



箕面山田線（千里けやき通り）

③みどりのまちづくりの方針

表 6.2.12 千里ニュータウン・万博・阪大地域のみどりのまちづくりの方針

基本施策							
1	住宅地のみどりの保全	8	商業地・業務地の緑化	14	拠点・骨格となるみどりの保全	21	花とみどりの情報センターの充実
2	丘陵・斜面のみどりの保全	9	住宅地の緑化	15	ネットワーク軸となるみどりの形成	22	みどりの人材育成
3	農地とため池の保全	10	公共施設の緑化	16	在来生物の生息・生育環境の保全	23	市民参画・協働によるみどりのまちづくり推進組織の設立
4	公園・緑地の適切な維持管理	11	身近な公園・緑地の新規整備	17	公園・緑地の再整備	24	みどりの助成制度の見直し
5	大学のみどりの保全			18	公園の運営管理	25	市民参画・協働によるみどりのまちづくりの推進
6	道路のみどりの適切な維持管理			19	みどりのまちづくり意識の普及・啓発	26	みどりの調査と研究
7	河川と水路の適切な維持管理			20	みどりが持つ多様な効果の活用	27	「緑化推進基金」の有効活用

基本施策を推進する重点プロジェクト			
1	公園・緑地のリバイタリゼーション(再生)	1-1	千里北公園・千里南公園・桃山公園パークマネジメントプランの策定
		1-2	遊園の利活用
		1-3	千里南公園へのパークカフェの設置
2	公園・緑地の維持管理の適正化と効率化	2-1	「公園施設長寿命化計画」の改訂
		2-2	「公園施設安全・安心対策事業」の推進
		2-3	公園・緑地樹木台帳の更新
		2-4	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(3-2 併合)
		2-5	市民による樹木見守り制度の導入(3-3 併合)
		2-6	樹形の適正化(3-4 併合)
		2-7	樹木健全度調査(3-5 併合)
		2-8	公園・緑地の地域別一括維持管理委託(アウトソーシング)の検討
3	街路樹のリバイタリゼーション(再生)	3-1	街路樹台帳の整備
		3-2	「(仮称)樹木適正管理指針」の策定(2-4 併合)
		3-3	市民による樹木見守り制度の導入(2-5 併合)
		3-4	樹形の適正化(2-6 併合)
		3-5	樹木健全度調査(2-7 併合)
7	歴史と風格のあるみどりのまちづくり	7-2	農地の再評価と利活用を通じた保全
		7-3	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(8-4 併合)
8	花咲くまちづくり	8-1	「(仮称)彩団地」の創出
		8-2	阪急南千里駅～北大阪急行桃山台駅間の沿道緑化
		8-3	公的住宅の建替えに併せた沿道緑化の誘導
		8-4	みどりに関する助成制度の総合的かつ抜本的な見直し(7-3 併合)
9	自然との共生に配慮する開発事業の誘導	9-1	「開発事業の手続等に関する条例(愛称:好いた すまいる条例)」の緑化基準の実効性の強化
		9-2	開発区域における植物の生育の確保上必要な樹木の保存、表土の保存その他の必要な措置に係る規定の充実
10	みどりのまちづくりを通じた生物多様性の保全	10-1	市民との連携・協働による身近な動植物の保全
		10-2	身近な動植物の観察会などを通じた生息・生育情報の蓄積
		10-3	外来種の駆除などを通じた環境学習の推進
11	千里花とみどりの情報センターのみどりのまちづくり実践型シンクタンク化	11-1	「(仮称)みどりの人材養成所」の運営
		11-2	「(仮称)みどりの人材バンク」の運営
		11-3	「(仮称)みどりのシンクタンク」の運営
		11-4	「(仮称)みどりのコラボ」の運営
13	大阪大学・千里金蘭大学・国立民族学博物館との連携によるみどりのまちづくり	12-1	みどりに関する連携研究
		12-2	みどりに関する協定の締結
		12-3	学生との連携・協働によるみどりのまちづくりの推進



図 6.2.12 千里ニュータウン・万博・阪大地域の重点プロジェクト

コラム

緑被率と緑視率

緑被率

緑被率は、ある一定の区域面積に対する緑被地（樹木や草花などの植物で覆われた土地）面積の割合のことであり、平面的な緑の量を把握するための指標として用いられています。緑の量と配置は、みどりのまちづくりを進めていく上での重要な要素であり、緑の状況が正確に把握できること、把握が容易であること、精度が一定保たれることなどの利点もあることから、国や地方自治体などにおいて、主に市域レベルなどの広範囲を対象として継続的な調査が行われています。

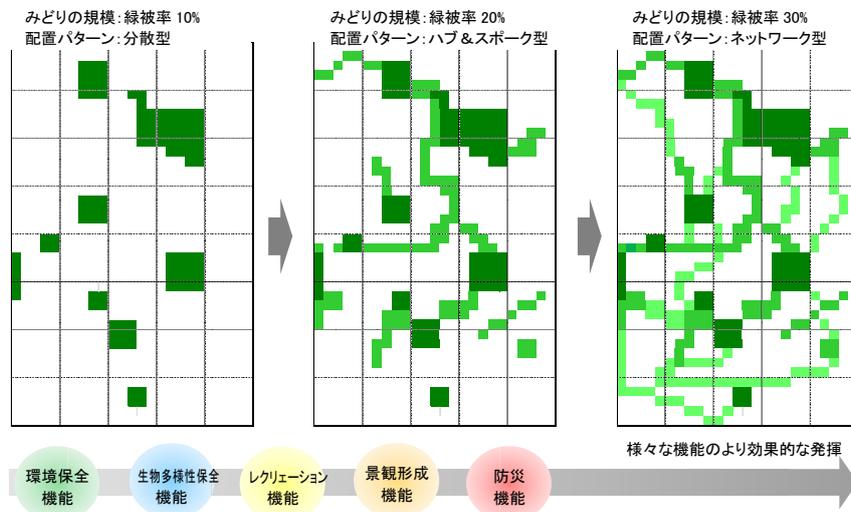


図 みどりの規模と配置の発展パターン

緑視率

緑視率とは、人の視野に占める緑（樹木や草花などの植物）の面積の割合のことであり、人が実感できる緑の量を把握するための指標として用いられています。視覚的な緑の量を簡易に把握できるため、みどりづくりの取組前後における緑の変化を継続的に調査できることや、わかりやすく伝えることができることなどの利点があります。アメニティの向上が求められる来訪者数の多い場所や、熱中症への適応策としての緑化が求められるヒートアイランド現象が顕著な場所など、特定の場所におけるみどりづくりに取り組む上での目標指標として活用されています。

【まちの緑視率測定イメージ】

国道309号（松原市）歩道部より（平成25年7月撮影）
 緑視率約21%（緑視率＝緑の面積÷撮影範囲）



（大阪府ホームページより引用）

（参考）

平成16年度に国土交通省が行った「都市の緑量と心理効果の相関関係の社会実験調査」によると、緑視率がおよそ25%を超えると緑が多いと感じ始めるという結果が出ています。